

メキシコ アボカド業界は2026年までに「森林破壊ゼロ」を約束

[FreshFruitPortal](#) 2025年8月27日

メキシコのアボカド業界は持続可能性に賭ける

1997年に米国農務省がメキシコ産アボカドの輸入禁止を解除すると、緑のゴールドラッシュが始まった。現在、この業界は米国で75億ドルを稼ぎ、4万2千人以上の雇用を創出している。メキシコの地理的近接性に支えられたこの継続的な市場の成長により、栽培方法が改善され、青果物業界の最大の課題の1つである持続可能性に取り組む可能性がもたらされた。

メキシコ政府は8月下旬に、農産物輸出に係る森林破壊ゼロ制度を開始することとし、それは2026年1月に発効する予定であると発表した。この取組みは、メキシコ・アボカド協会が4月に立ち上げた「持続可能性への道」と呼ばれるより広範な戦略的枠組みの一環であり、営農方法を環境保全目標に合わせることを目的としている。この計画の目標は、2030年までにすべての農産物輸出による森林破壊をゼロにすることである。

樹上から食卓までアボカドを追跡

メキシコ・アボカド協会のディレクターであるアナ・アンブロシ氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、この業界は現在3万5千以上の小規模家族経営農場と90以上の集出荷業者で構成されており、果樹園から輸出までのサプライチェーン全体を能動的に監視する堅牢なトレーサビリティの仕組みを備えていると説明した。

同氏は、「アボカドが収穫された瞬間から米国に到着する瞬間まで、バーコードは収穫日、果樹園の所在地、それに梱包施設を教えてくれる」と説明した。(以下「」は同氏の話)

この業界のトレーサビリティシステムは、米国農務省が監督し、メキシコ政府の規制の下にある作業計画によって支えられており、輸出業者による登録と遵守が義務付けられている。アンブロシ氏は、持続可能な農法の広範な採用のおかげで、業界の5万4千の果樹園の約85%は既に森林破壊がなく、最初の1年以内に新しい基準の下で適格とされる可能性が高いと述べた。

同氏は、メキシコのアボカド果樹園の60%以上が天水のみに依存しており、残りはマイクロスプリンクラーや点滴灌漑などのハイテクで持続可能な灌漑方法を採用していると説明した。

森林破壊のないアボカドへの道の概要

『持続可能性への道』計画は、水資源管理の強化、生物多様性と森林の保全、環境負荷の削減、将来に向けた対応力の構築という4つの主要な取組みに焦点を当てている。アンブロシ氏によると、これらは包括的な調査、自然への影響と依存関係のマッピング、及び指針として組み込まれた業界の慣行に基づいている。

「我々は本当にボトムアップから始めた。この戦略とフレームワークの全体が、業界の幹部及びすべての関係者と調整されている。既存の慣行をすべてこの新しい戦略に組み込んでいる。」

アンブロシ氏は、業界とメキシコ政府との最新の合意により、果樹園が森林伐採地にあることに気づいていない可能性のある小規模生産者の監視、説明責任の履行、及び制度的な是正も可能になると説明した。

「この新しい合意により、輸出されるアボカドが森林破壊された土地から調達されないように、環境補償の仕組みと制度に則った合法化への道が開かれることになる。」

持続可能性は良いビジネス

ペルー等の他の主要アボカド輸出国は、出荷量を増やし、品質基準を高めることで米国の消費者を魅了しようとしてきたが、メキシコのアボカドが米国人にとって最高の選択肢であることは依然としてほとんど議論の余地がない。既に世界中の輸出先市場を支配する拠点となっているため、このセクターがビジネス戦略に重点を置くのは当然である。

シンコデマヨの祝日やスーパーボウルに向けた販促等、米国の消費者に合わせた販売活動が数十億ドルの収益を上げ続けている一方、メキシコのアボカド業界は持続可能で森林破壊のない生産に注力している。

これは戦略的な動きであるとアンブロン氏は説明する。「可能な限り持続可能であるという文化的義務があり、経済成長は持続可能性に依存することがビジネス上避けて通れない重要課題である」。

業界はまた、アボカド協会を介したワークショップや広報キャンペーンを通じ、また2年ごとの定期的かつ包括的な持続可能性報告書の作成の取組みにより、生産者や梱包業者に積極的に関わっている。透明性を目指し、報告書では設定された目標に対する進捗状況を追跡することとなっており、最初の報告書は2027年に発行される予定である。

「アボカド業界の成長は、環境問題に対処して初めて持続可能となる。これらの取組みは、最高品質のアボカドを提供するだけでなく、最も持続可能なアボカドを提供するためにも不可欠である。」

執筆者：カーラ・エスピノザ・グティエレス

(関連記事)メキシコ アボカド業界が初の森林破壊ゼロ合意で主導的役割

[FreshPlaza 2025年8月27日](#)

メキシコのアボカド業界は、2030年までにすべての青果物輸出が森林破壊に関与していないと保証することを目指し、メキシコ連邦政府との拘束力のある保全合意に取り組んでいる。森林破壊ゼロ合意に初めて参加した業界として、メキシコのアボカド業界は国内での模範を示すとともに、自身の「持続可能性への道」を進んでいる。

メキシコ産ハスアボカド輸入業者協会の戦略顧問であるラモン・パスベガ氏は、「この保全合意において、アボカドがメキシコ国内の取組みを主導することは光栄である。我々の業界は、アボカドを取り巻く状況を未来の世代のために引き継ぐべく、3万5千以上の生産者と90以上の梱包業者から成るネットワークの力によって、メキシコの森林破壊ゼロの目標に向かって先陣を切っている。この取組みにおける政府の連携に感謝しており、特に、我々の取組みをメキシコの森林、水資源、生物多様性、その他の保全に拡大する『持続可能性への道』の下で進展が見られることから、なおさらそう思う」と述べた。

この連邦の取組みには、説明責任と監視の仕組みが含まれている。また、メキシコの環境法に基づき、対象となる果樹園が国際市場へのアクセスを確保するための合法化及び環境補償への道筋も設定されている。2026年1月以降、基準を満たさない青果物は輸出できない。

メキシコ・アボカド輸出生産者・梱包業者協会の持続可能性担当副会長であるエンリケ・アウディフレッド氏は、「連邦政府との前向きな対話と協力に感謝している。この保全合意は、メキシコの森林を回復し、保護するという我々の共通目標を具体的な行動で反映するものである。我々の業界は、メキシコのアボカドをめぐる状況に関し、引き続き強靱で持続可能な未来を築き、この合意を超える成果をもたらしていく」と述べた。

メキシコのアボカド業界は、成功に向けた独自の優位性を有しており、5万4千以上の果樹園のうち少なくとも85%が初年度に適格となる見込みである。この業界は、メキシコ国内での7万8千人の直接雇用と、米国での4万2千人以上の雇用を支える重要な経済推進力であり、その環境管理の取組みは、サプライチェーンの持続性と地域社会の活力にとって不可欠である。

この連邦との保全合意は、メキシコ・アボカド協会が推進する「持続可能性への道」計画の一環である。今年になって開始されたこの計画は、森林破壊ゼロ、水資源管理、生態系の連結性、及び生物多様性に関する具体的な目標の下、生産者、梱包業者、輸入業者及び輸出業者の連帯を図るものである。

詳細は <https://avocadoinstitute.org/sustainability> を参照されたい。